

# いき活かわら版

北九州市「いきがい活動ステーション」(いきステ)の月刊情報紙

## 第51号

2021年11月15日

発行  
いきがい活動ステーション

## 「幸福な老い方」をいきステで発見 「これからの人生が楽しみ」になった若者

「人々はどんなことに生きがいを感じるんだろう?」「幸せな人生って何?」……大学院でそんな研究をしている一人の学生が、修士論文をまとめるための研究対象のひとつに「いきがい活動ステーション」(いきステ)を選び、7月からボランティア・スタッフとして通っています。その学生は、「いきステ」を通じて出会ったシニアの皆さんから多くのことを学び、修士論文に生かしただけでなく「私自身の人生の指針を得た」と話しています。それはどんなことなのでしょう。本人にインタビューしました。



▲「いきステ」での山本悠加さん

### ■ロボットで本当に人は幸せになれる?

その学生は九州大学大学院2年生の山本悠加さん(25)です。山本さんは北九州市小倉南区の生まれ育ち。先進科学技術を学んで社会の役に立ちたいと、中学卒業後は北九州工業高等専門学校に進みました。主にロボットのプログラミングなどを勉強しましたが、人と対話する「おしゃべりロボット」を研究する中で、ロボットを見た人たちの「すごいとは思うけど、欲しくはない」という多くの声を聞き行き詰まります。「科学はどこまで人を幸せにできるのか」という根本的な疑問にぶつかったそうです。その後、ドイツに短期留学したときに「理想的な学生食堂とは?」というワークショップ研修で「幸福感や満足度は与える側と受ける側との双方の評価で生まれる」ということに気づいたのでそうです。山本さんはその後、人は人生の締めくくりである高齢者になってから、どんなことが生きがいになり、何に幸せを感じるのだろうかと思いつ



▲シニアに交じって地域のワークショップにも参加した山本さん

めました。そして、人の幸福感や満足度に関する人生デザインについて研究しようと、九州大学大学院芸術工学府のデザインストラテジー専攻に進みました。その疑問はまさに自分自身の人生のテーマでもあるからです。修士論文のテーマを「幸福な老いと高齢者の地域への関わり方」に決めた最大の理由です。

### ■生き生きと活躍する元気なシニアたち

山本さんは、高齢者の活動や生きがいの実態を自分の目で確認したいと、取材の場を探る中で、北九州市の「いきがい活動ステーション」を知り、訪ねたのが7月初めでした。いろんな資料を提供してもらっただけでなく、日常の活動にも参加したいと、出張相談会やオンラインおしゃべり会などにもボランティア・スタッフとして参加、活動を手伝えることになりました。

それから約4カ月。山本さんは北九州市で活動する多くのアクティブシニアの存在を知りました。学資に困っている学生を支援している人、

地域住民の交流の場を提供する子どもたちや高齢者・障がい者のために献身的に働いている人たち、自分の趣味を生かした活動を続けている人たち……。そんな多くの人たちの思いを聞き、活動を取材しました。どの人も生き生きと楽しく生活している姿が印象的だったそうです。

### ■好きなことをしながら生きていく幸せ

そうした経験から学んだことについて山本さんは言います。「地域社会には、人と人とのつながり、地域とのつながり、それを手伝いする人の存在がいかに大事か」「自分だけでなく、多くの他人の存在自体を尊重し、ポジティブにとらえることの大切さを知りました」

山本さんは「人は好きなことばかりしてはだめ。嫌でも他人のためになることもしなければいい大人にはなれない」と教えられ、自分自身もそう思い込んでいたそうです。でも、好きなことをしながら社会のためになる生き方をしている人がたくさんいることを知り、「そんな生き方ができるんだ」とうれしくなってきたそうです。「私自身のこれからの人生が楽しみになってきました」と笑顔で締めくくってくれました。

山本さんは来春から住環境総合メーカーに就職します。北九州市のシニアから学んだ「幸福な老い」をライフワークに、素晴らしい仕事をしてくれることでしょう。